

第18回海洋立国推進功労者表彰受賞者

2. 海洋に関する顕著な功績 分野

海事 部門

氏 名	つじもと まさる 辻本 勝	年齢	54	
所 属	国立研究開発法人海上・港湾・航空技術研究所 研究監			
功績の概要	実海域実船性能評価の「ものさし」の開発による海運からの GHG 排出削減に貢献			

功 績 事 項

船舶の推進性能（速力・燃費）推定、実船モニタリングデータからの性能解析法の開発に携わり、その過程で船舶の波・風・潮流、エンジン特性・経年等の影響がある実海域推進性能を高精度に推定する手法を開発した。この手法は国連の専門機関である国際海事機関（IMO）で国際海運からの温室効果ガス（GHG）排出削減のため開始されたエネルギー効率設計指標（EEDI）規制に反映され、我が国造船業の技術力を正当に、また公平に評価できる仕組み作りに貢献した。

また、日本海事クラスター（船社、造船所、船用メーカー等のべ 27 機関が参加）によるオープンイノベーション型プロジェクト「実海域実船性能評価プロジェクト（OCTARVIA Project）」の研究開発を主導し、船舶の設計段階、運航段階で利用される透明かつ公平な実海域実船性能評価の「ものさし」の開発を行ったことにより我が国海事クラスターによる GHG 排出削減に貢献した。

※令和 6 年 3 月末に「実海域実船性能評価プロジェクト（OCTARVIA Project）」フェーズ 2 が、成果プログラムの海上技術安全研究所クラウド（ウェブ形式で登録会員にはどこからでも使用可能なサービス）での一般向け公開等の成果をあげて完了。

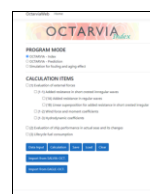
高精度に開発した実海域実船性能評価の「ものさし」（船の実海域での推進性能評価は検証方法も確立されていなく事業者任せの状況で不確定要素が多分に存在したが、国際的に通用する標準的評価法を開発）により、日本海事クラスターの実海域性能評価レベルを世界最高水準に引き上げた。

国際海運からの GHG 排出削減規制への実海域性能の反映のため、IMO での審議に参加し、そこでの国際議論を通じて規制内容に我が国造船業の技術力を公平に評価できる指標（実海域におけるエネルギー効率設計指標：EEDIweather）の導入に繋がった。

オープンイノベーション型プロジェクト「実海域実船性能評価プロジェクト（OCTARVIA Project）」の実施により、これまで企業内で閉じられていたデータを共有することで、1 社では得られない知見・ノウハウを共有化し、標準手順書にまとめ、産業界連携による技術振興に貢献した。特に、実海域実船性能をユーザー自ら検証できる透明で公平な標準手法を世界で初めて開発し、標準手順書にまとめた事項は特筆されるもので、これらの開発技術が産業界で利用開始されている。



国際ベンチマーク水槽試験の実施



海上技術安全研究所クラウドでのプログラム公開